

令和5年度（2023年度） 佐賀県環境センター業務概要

1 大気・水質課、環境理学課共通

(1) 環境教育等事業

① 「環境月間（毎年6月）」行事の開催

事業名	日程	内容	参加者
環境センター公開	令和5年6月5日（月） ～6月9日（金）	○水質や大気などの実験 ・自動車排気ガスをしらべてみよう ・酸性雨をしらべてみよう ○施設見学 大気環境常時監視システム、環境放射線モニタリングシステム、地球温暖化防止コーナー、環境放射線測定車、燃料電池車	・鍋島小学校 ・開成小学校 計 200名

② 出前講座による環境教育の実施状況

14回、281名に対して環境出前講座を実施した。

学校名	内容	回数	参加者			
嬉野市立塩田小学校	水質等調査	1回	4年生 20名			
神崎市立千代田中部小学校	水質等調査	1回	5年生 34名			
唐津市立打上小学校	身のまわりの放射線を調べてみよう	1回	6年生 16名			
嬉野市立久間小学校	水質等調査	1回	4年生 28名			
武雄市立武内小学校	自動車の排気ガス実験	1回	5年生 19名			
唐津市立名護屋小学校	自動車の排気ガス実験	1回	4年生 14名			
神崎市立千代田中部小学校	自動車の排気ガス実験	1回	5年生 34名			
伊万里市立山代東小学校	身のまわりの放射線を調べてみよう	1回	6年生 30名			
伊万里市立牧島小学校	水質等調査	1回	3年生 13名			
伊万里市立山代西小学校	水質等調査	1回	3・4年生 11名			
唐津市立平原小学校	自動車の排気ガス実験	1回	6年生 8名			
唐津市立平原小学校	水質等調査	1回	4・5年生 14名			
唐津市立玉島小学校	酸性雨測定実験	1回	5・6年生 19名			
武雄市立武内小学校	水質等調査	1回	4年生 21名	合計	14回	281名

③ 水生生物調査研修会への講師派遣

各地域における環境教育の取組を支援するために環境課が主催する、県保健福祉事務所及び市町職員を対象とした水生生物調査の研修会へ講師を派遣し、水生生物の採取、分類、記録方法等に関する講義及び実習を行った。

開催日：5月23日、参加人数：18名（うち市町職員8名）

④ 外部機関への講師派遣

外部機関等からの依頼に基づき講師等を派遣し、業務に関わるテーマについて講義等を行った。

⑤ 研修・見学等の受入

インターンシップ（大学生計4名）を受け入れ、環境センターの業務説明を行った。

⑥ 情報発信業務

環境センターホームページによる情報発信

県のホームページにより、環境センターの業務紹介や測定データなどの情報発信を行った。

<主な発信情報>

- ・各課業務紹介（大気・水質課、環境理学課）
- ・環境学習情報（環境センター出前講座、施設見学・研修状況）
- ・データ集（大気環境調査結果、大気環境常時監視データ、大気環境中アスベスト濃度調査結果等）

2 大気・水質課

(1) 大気関連事業

大気汚染防止法の規定に基づく大気の汚染状況の常時監視、有害大気汚染物質の測定等を行った。

また、一般環境のアスベスト調査を行い、さらに、全国環境研協議会酸性雨共同調査や国立研究開発法人国立環境研究所との共同研究などの調査研究にも参加した。

① 大気環境常時監視

大気環境常時測定局（21 局）で測定している二酸化硫黄（SO₂）、窒素酸化物（NO_x）、一酸化炭素（CO）、光化学オキシダント（O_x）、非メタン炭化水素（NMHC）、浮遊粒子状物質（SPM）、微小粒子状物質（PM_{2.5}）等の濃度を、テレメータシステムにより監視している。

令和 5 年度の二酸化いおう、一酸化炭素、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び微小粒子状物質（PM_{2.5}）については、全ての測定局で環境基準を達成した。光化学オキシダントについては、環境基準の超過があったが、注意報の発令はなかった。

② 有害大気汚染物質モニタリング（一般環境大気調査）

調査地点：佐賀市（佐賀局）、伊万里市（大坪局）の 2 地点

調査時期：各地点、毎月 1 回、24 時間採取

調査項目：〔21 物質〕アクリロトリル、アセトアルデヒド、塩化ビニルモノマー、塩化メチル、クロム及びその化合物、クロホルム、酸化エチレン、1,2-ジクロロエタン、ジクロロメタン、水銀及びその化合物、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、トルエン、ニッケル化合物、ヒ素及びその化合物、1,3-ブタジエン、ベリリウム及びその化合物、ベンゼン、ベンゾ[a]ピレン、ホルムアルデヒド、マンガン及びその化合物

環境基準が定められているベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンの 1 年平均値については、全て環境基準を下回った。

③ 大気中のアスベスト調査（一般環境大気調査）

調査地点：佐賀市（佐賀局）、鳥栖市（鳥栖局）

調査時期：年 2 期（5 月、10 月）

調査方法：4 時間／日 連続 3 日間調査 2 か所／1 地点、2 地点／期

④ PM_{2.5} 成分分析

調査地点：佐賀市（佐賀局）

調査時期：年 4 期（春、夏、秋、冬）

調査期間：24 時間採取、20 検体／期（14 日間＋6 日間（二重測定）／期）

調査項目：41 成分・1 項目

イオン成分（8 成分）：Cl⁻、NO₃⁻、SO₄²⁻、Na⁺、NH₄⁺、K⁺、Mg²⁺、Ca²⁺

無機元素成分（31 成分）：ベリリウム、ナトリウム、アルミニウム、カリウム、カルシウム、スカンジウム、チタン、バナジウム、クロム、マンガン、鉄、コバルト、ニッケル、銅、亜鉛、ヒ素、セレン、ルビジウム、モリブデン、カドミウム、アンチモン、セシウム、バリウム、ランタン、セリウム、

サリウム、ハフニウム、タンタル、タングステン、鉛、トリウム

炭素成分（2成分）：有機炭素、元素炭素

質量濃度（1項目）：重量

⑤ 環境省委託調査（化学物質環境実態調査）

ア 初期・詳細環境調査（試料採取のみ）

環境リスクが懸念される化学物質について、一般環境中で高濃度が予測される地域においてデータを取得することにより、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（以下「化管法」という。）」の指定化学物質の指定、その他化学物質による環境リスクに係わる施策について検討する際のばく露の可能性について判断するための基礎資料等とすることを目的とし、県が試料採取を行い国の指定分析機関において化学物質の調査を実施した。

調査地点：佐賀市（環境センター）

調査時期：令和6年1月

調査方法：LV サンプラーにより各24時間の3日間連続採取

調査項目：2,4-キシレンール、p-クロフェノール、ヘキサメチレンジアミン

イ 詳細環境調査（試料採取のみ）

「化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律（以下「化審法」という。）」の優先評価化学物質のリスク評価等を行うため、一般環境中における全国的なばく露評価について検討するための資料とすることを目的とし、県が試料採取を行い国の指定分析機関において化学物質の調査を実施した。

調査地点：佐賀市（環境センター）

調査時期：令和6年1月

調査方法：LV サンプラーにより昼と夜の12時間、3日間連続採取

調査項目：4,4'-ジアニノ-3,3'-ジクロロジフェニルメタン

ウ モニタリング調査（試料採取のみ）

POPs条約の対象物質及びその候補となる可能性のある物質並びに化審法の特定化学物質及び監視化学物質等のうち、環境残留性が高く環境残留実態の推移の把握が必要な物質を経年的にモニタリングすることを目的として、県が試料採取を行い国の指定分析機関において化学物質の調査を実施した。

調査地点：佐賀市（環境センター）

調査時期：令和5年10月～11月

調査方法：MV サンプラーにより7日間連続採取及びLV サンプラーにより24時間の3日間連続採取

調査項目：MV サンプラー（POPs7物質群）、LV サンプラー（ヘキサクロブタ-1,3-ジエン）

⑥ 調査研究

ア 全国環境研協議会の酸性雨調査研究部会による酸性雨共同調査

調査地点：佐賀市（環境センター）

調査期間：令和5年4月～令和6年3月（目安：1週間ごとの採取）

採取方法：自動雨水採水装置

調査項目： SO_4^{2-} 、 NO_3^- 、 Cl^- 、 NH_4^+ 、 Na^+ 、 K^+ 、 Ca^{2+} 、 Mg^{2+} 、pH、EC

イ II型共同研究（国立研究開発法人国立環境研究所と地方環境研究所等の共同研究）

II型共同研究テーマ「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」（研究期間：令和4年度～令和6年度）」に参加した。

（研究内容）

令和5年度：2011年度～2020年度の県内の O_x 測定データを用いてトレンド解析を行った。

オキシダントの前駆物質（VOC・アルデヒド類）の多地点同時観測によりVOC組成の地点間比較等を行った。

⑦ 精度管理

環境測定分析の精度の向上を図り、環境測定データの信頼性の確保に資するため、精度管理調査に参加した。

酸性雨分析精度管理

調査項目： SO_4^{2-} 、 NO_3^- 、 Cl^- 、 NH_4^+ 、 Na^+ 、 K^+ 、 Ca^{2+} 、 Mg^{2+} 、pH、EC

令和5年度（調査期間：令和5年11月）の結果は良好であり、分析精度が確保されていることが確認された。

<大気環境常時測定局>

(令和6年3月31日現在)

分類	測定局名	二酸化硫黄 SO2	一酸化窒素 NO	二酸化窒素 NO2	窒素酸化物 NOx	一酸化炭素 CO	光化学 オゾン Ox	非メタン 炭化水素 NMHC	メタン CH4	全炭化 水素 THC	浮遊粒子 状物質 SPM	微小粒子 状物質 PM2.5	風向 風速 WD・WS
一般環境測定局	1 佐賀	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	2 神埼	○	○	○	○						○	○	○
	3 三瀬	○	○	○	○		○				○	○	○
	4 多久	○	○	○	○		○				○	○	○
	5 鳥栖	○	○	○	○		○				○	○	○
	6 基山	○	○	○	○		○				○		○
	7 唐津	○	○	○	○		○				○	○	○
	8 竹木場	○	◎	◎	◎						○		○
	9 肥前 *1	◎	◎	◎	◎		○				◎	○	◎
	10 大坪	○	○	○	○		○				○	○	○
	11 山代	○	○	○	○						○		○
	12 南波多*1	◎	◎	◎	◎						◎		◎
	13 大川 *1	◎	◎	◎	◎						◎		◎
	14 日南郷*1	◎	◎	◎	◎						◎		◎
	15 西有田*1	◎	◎	◎	◎		○				◎		◎
	16 武雄	○	○	○	○		○				○	○	○
	17 白石	○	○	○	○						○	○	○
	18 鹿島	○	○	○	○		○				○	○	○
	19 嬉野	○	○	○	○		○				○	○	○
自排 局*2	20 兵庫		○	○	○	○					○		
	21 曾根崎		○	○	○	○					○		

*1) 事業者(九州電力)管理の局舎、*2) 自動車排出ガス測定局

[○:県管理の測定項目、◎:事業者(九州電力)管理の測定項目]

(2) 水質関連事業

水質汚濁防止法、佐賀県環境の保全と創造に関する条例、水質汚濁防止法第3条第3項の排水基準を定める条例、佐賀県土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例等に基づき、工場・事業場の排水の水質検査を行うとともに、地下水、公共用水域、土壌等の調査を行った。

また、廃棄物処理場周辺の水質環境調査、檜原湿原水質環境調査、異常水質・苦情処理等による環境調査などを行った。

さらに、国立研究開発法人国立環境研究所等との共同研究にも参加した。

① 工場・事業場等排水の水質検査

水質汚濁防止法等の規定に基づく特定事業場における排水基準遵守等を監視するため、年間計画に基づき、事業場等の排水等検査を実施。

区 分	検 体 数	総検査数	検 査 項 目
保健福祉事務所から搬入	144	1108	pH、BOD、COD、SS、ヘキサン抽出物質、銅、亜鉛、溶解性鉄、溶解性マンガ、全クロム、大腸菌群数、窒素含有量、リン含有量、カルシウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、トリクロエチレン、テトラクロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、ベンゼン、セレン、杓素、フッ素、各態窒素、陰イオン界面活性剤、クロエチレン、トランス-1,2-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン [全38項目]

② 公共用水域及び地下水の水質検査

汚染が確認された井戸の周辺地区調査及び新たな地下水環境基準超過の情報を得た井戸の確認調査を行った。また、地下水の水質測定計画に基づき、継続監視調査地区の汚染の拡がり等を再確認するために再度汚染井戸周辺地区調査を実施。

調査地区	調査種類	調査時期	検体数	総検査数	基準超過数	検査項目
神崎市	確認検査	6月	1	1	0	鉛
有田町	再度汚染井戸周辺地区調査	10月	12	24	0	フッ素、杓素
神崎市	再度汚染井戸周辺地区調査	11月	27	27	7	フッ素
鳥栖市	再度汚染井戸周辺地区調査	11月	28	84	0	砒素、フッ素、杓素
上峰町	再度汚染井戸周辺地区調査	12月	17	136	0	クロエチレン、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロエチレン
嬉野市	確認検査	3月	1	1	1	総水銀
合計			86	273	8	[全13項目]

③ 廃棄物処理場等周辺環境調査

廃棄物の不法処分地周辺の水域等において、有害物質調査を実施。

調査対象：唐津市の湧水

調査時期及び調査地点：8月、12月（湧水3地点）

調査項目：1,1-ジクロロエチレン、ジクロロメタン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、
1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、テトラクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン [全12項目（評価用項目も含む。）]、検体数6]

④ 檜原湿原水質環境調査

県の自然環境保全地域に指定されている檜原湿原及び湿原への流入小河川について、水質調査を実施。

調査地点：湿原内の調査地点（4地点）及び湿原への流入河川（3地点）

調査時期：4月、7月、10月、2月

調査項目：pH、DO、COD、BOD、SS、全窒素、全リン、溶解性鉄、EC

[全9項目、検体数26]

⑤ 土砂特定事業の土壌・水質検査

佐賀県土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例の特定事業において、土砂及び水質が安全基準に適合しているか確認するため、土壌及び水質調査を実施。

調査地点：県内2地点

調査時期：1月

調査項目：カリウム、鉛、砒素、ジクロロメタン、四塩化炭素、クロロエチレン、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、
1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、1,4-ジオキサン、ベンゼン、セレン、杓素

[全18項目、検体数4]

⑥ 環境省委託調査（化学物質環境実態調査） 調査時期 11月

ア 初期環境調査

化管法における指定化学物質の指定について検討が必要とされる物質、社会的要因から調査が必要とされる物質等の環境残留状況の把握を目的とし、県が試料採取及び一般項目検査を行い、国の指定分析機関において化学物質の調査を実施。

調査地点：伊万里湾内（水質1検体、底質3検体）

調査項目：水質（県）pH、DO、COD、SS、Cl⁻、EC、ベンゾフェノン

[全7項目、検体数1]

（指定機関）2,4-キシレンール、*p*-クロロフェノール

底質（県）水分含有量、強熱減量

[全2項目、検体数3]

（指定機関）2,4-キシレンール

イ 詳細環境調査

化審法の優先評価化学物質のリスク評価等を行うため、一般環境中における全国的なばく露評価について検討するための資料とすることを目的とし、県が試料採取及び一般項目検査を行い、国の指定分析機関において化学物質の調査を実施。

調査地点：伊万里湾内（水質 1 検体、底質 3 検体）

調査項目：水質（県）pH、DO、COD、SS、Cl⁻、EC [全 6 項目、検体数 1（初期と同一試料）]

（指定機関）4,5-ジクロロ-2-n-オクチルイソチアゾール-3-オン、

N'-tert-ブチル-N-シクロピピル-6-(メチルオ)-1,3,5-トリアジン-2,4-ジアミン

底質（県）水分含有量、強熱減量 [全 2 項目、検体数 3（初期と同一試料）]

（指定機関）N'-tert-ブチル-N-シクロピピル-6-(メチルオ)-1,3,5-トリアジン-2,4-ジアミン

ウ モニタリング調査

POPs 条約の対象物質及び化審法の特定化学物質等のうち、環境残留性が高く環境残留実態の推移の把握が必要な物質を経年的にモニタリングすることを目的として、県が試料採取及び一般項目検査を行い、国の指定分析機関において化学物質の調査を実施。

調査地点：伊万里湾内（水質 1 検体、底質 3 検体）

調査項目：水質（県）pH、DO、COD、SS、Cl⁻、EC [全 6 項目、検体数 1（初期と同一試料）]

（指定機関）POPs 類等 8 物質群

底質（県）水分含有量、強熱減量 [全 2 項目、検体数 3（初期と同一試料）]

（指定機関）POPs 類等 8 物質群

エ 分析法開発業務

化学物質環境実態調査を実施する上で妥当な分析法がない物質について、要望媒体（水質、底質、生物、大気）に適した分析法の開発を目的とする。県が試料採取を行い、分析自治体においてスクリーニング分析を実施。

調査地点：伊万里湾内（水質 1 検体）

調査項目：（分析自治体）AIQS-GC スクリーニング [検体数 1（初期と同一試料）]

⑦ 異常水質・苦情処理等による環境調査

異常水質、苦情等の発生時において、環境汚染状況、原因究明等の調査を実施した。

- ・ 苦情発生事業場の改善確認検査： 2 件（事業場排水 7 検体）

調査項目： pH、BOD、SS、大腸菌群数、窒素含有量、リン含有量、各態窒素

- ・ 豚糞対応に係る水質調査： 1 件（滲出水 1 検体）

調査項目： pH、BOD、SS、n-ヘキサン抽出物質含有量（鉱油類、動植物油脂）、各態窒素

[全 9 項目、検体数 8]

⑧ 調査研究

ア II型共同研究（国立研究開発法人国立環境研究所と地方環境研究所等の共同研究）

- ・「災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発」

事故・災害時において初動時スクリーニングに有効な GC/MS による全自動同定定量データベースシステムの構築と、地方環境研究所等への実践的な普及を目的とした調査研究に参加した。

- ・「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」

河川プラスチックごみの調査研究を実施し、調査技術の向上や共通化を図りつつ、河川プラごみの排出実態に関する基礎的な知見を得る調査研究に参加した。

イ 日韓海峡沿岸環境技術交流事業

日本及び韓国の地方自治体（日本側：福岡県、佐賀県、長崎県及び山口県 韓国側：釜山広域市、全羅南道、慶尚南道及び済州特別自治道）が環境問題に関して相互理解を深めるとともに環境保全に資することを目的として、平成7年度（山口県は平成12年度）から2年ごとにテーマを決めて共同事業を行っている。令和4年度及び令和5年度は継続して「日韓8県市道環境政策・研究事例発表会」を実施した。

2023年度第1回実務者会議（令和5年5月15日開催）及び2023年度第2回実務者会議（令和5年10月26日開催）に出席した。また、2023年度第2回実務者会議では「樫原湿原における水質調査について」の発表を行った。

⑨ 精度管理

環境測定分析の精度の向上を図り、環境測定データの信頼性の確保に資するため、環境省による環境測定分析統一精度管理調査及び機器メーカーによる技能試験に参加している。令和5年度は、水質試料中のCOD、全窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、ジクロロタン、テトラクロエチレン、ベンゼン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,4-ジメチルベンゼン、トリクロロエチレン、トランス-1,2-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエタン及び四塩化炭素並びに土壌試料中のフッ素及び砒素の15項目の環境測定分析統一精度管理調査に参加した。その結果、精度が確保されていることが確認された。

また、機器メーカーの技能試験に参加し、各態窒素の測定精度が確保されていることが確認された。

3 環境理学課

(1) 玄海原子力発電所周辺環境放射能調査

玄海原子力発電所周辺の住民の安全確保及び環境保全を図るため、原子力発電所の安全確保に関する協定に基づき調査を行った。

① 空間放射線

ア モニタリングポスト

モニタリングポストによる空間放射線量率等の連続測定を行った。

市町名	地点	頻度	備考
唐津市	19	連続	測定データはテレメータシステムにより環境センターへ伝送し、常時監視
玄海町	4	連続	
伊万里市	3	連続	
計	26		

イ 走行サーベイ

走行サーベイシステムを用いて、発電所周辺主要道路上の空間放射線量率の走行測定（走行サーベイ）を実施した。

測定地点	ルート数	頻度
発電所 5～30 km	12	各1回

② 環境試料中放射能調査

γ線スペクトロメトリ分析や放射化学分析により、環境試料中の放射能調査を行った。

測定項目 試料区分	試料数	γ線スペクトロメトリ		放射化学分析	
		γ線核種※1	ヨウ素-131	ストロンチウム-90	トリチウム
農畜産物・植物	19	171	12	3	-
海産生物	10	90	2	4	-
水	12	108	12	8	12
土※2	16	144	—	15	-
計	57	513	26	30	12

※1 γ線放出核種として、セシウム 137 やコバルト 60 など、9核種の測定を行った。(以下同じ)

※2 土壌試料のうち一部(10地点)は、外部分析機関に委託して実施した。

③ 大気浮遊じん中放射能調査

大気浮遊じん中の放射能調査を行った。

測定項目 試料区分	地点数 (試料数)	γ線スペクトロメトリ	
		γ線核種	ヨウ素-131
大気浮遊じん連続測定	1(12)	108	0
大気浮遊じん中の放射性ヨウ素測定	8(11)	—	11
計	9(23)	108	

- ④ 県と九州電力による測定値確認調査（クロスチェック）
 県と九州電力において周辺環境放射能調査の同一試料を用いて分析、測定値を確認した。
 令和5年度の状況（総検査数）は、次のとおりである。

測定項目 試料区分	地点数 (試料数)	γ線スペクトロメトリ		放射化学分析	
		γ線核種	ヨウ素-131	ストロンチウム-90	トリチウム
農畜産物・植物	2	18	2	2	-
海産生物	1	9	1	1	-
水	1	9	1	1	1
土	2	18	—	2	-
計	6	54	4	6	1

- ⑤ 放射能分析確認調査（（公財）日本分析センターとの精度管理）
 （公財）日本分析センターと比較確認を行った。
 令和4年度は全ての検討基準内で一致しており、環境センターにおける分析は適正に行われていたことが確認された。
 令和5年度の状況（総検査数）は、次のとおりである。

測定項目 方法	地点数 (試料数)	γ線スペクトロメトリ		放射化学分析	
		γ線核種	ヨウ素-131	ストロンチウム-90	トリチウム
試料分割法※1	5(8)	54	—	2	2
標準試料法※2	13	36※3	1	2	2

- ※1 試料分割法 玄海原子力発電所周辺環境放射能調査の試料として県が採取したものを、県及び（公財）日本分析センターで分析・測定し、結果を比較。（イと重複計上）
 ※2 標準試料法 （公財）日本分析センターで放射性物質を添加した検体を県と同センターで分析・測定し、結果を比較
 ※3 標準試料法のγ線核種総検査数は令和5年度分析確認調査で実際に検体へ添加したγ線放出核種数を計上

(2) 環境放射能水準調査（委託調査）

原子力規制庁からの委託事業として環境放射能水準調査を行った。令和5年度の状況は、次のとおりである。

① 空間線量率

モニタリングポストによる空間放射線量率の測定を行った。

市町名	地点数	頻度	備考
佐賀市	1	連続	測定データは原子力規制庁へリアルタイムで伝送
唐津市	1	連続	
鳥栖市	1	連続	
多久市	1	連続	
武雄市	1	連続	
嬉野市	1	連続	
計	6		

② 全β放射能調査

試料区分	地点数	試料数（頻度）	全β検査数
定時降水	1	86	86

③ 環境試料中の放射能の調査（Ge半導体検出器によるγ線放出核種の測定）

試料区分	地点数 (試料数)	総検査数	
		γ線核種 ^{※1}	ヨウ素-131
大気浮遊じん	1(4)	16	4
降下物	1(12)	48	12
陸水	1(1)	3	1
土壌（2層採取）	1(2)	8	-
農畜産物（精米、ほうれん草、大根）	1(3)	11	3
農畜産物（牛乳）	1(1)	3	1

※1 γ線放出核種として、環境試料ごとに原子力規制庁への報告対象核種数を計上

(3) 緊急時モニタリング訓練

県原子力防災訓練において、緊急時モニタリング訓練を実施した。(令和5年10月14日)

UPZにおける緊急時モニタリングについては、国の統括の下実施する内容を踏まえて、事態の進展に応じた実践的な訓練となるようモニタリング項目等を設定し、手順の確認などを行った。また、並行して県全域における県の環境放射線モニタリング実施訓練を行った。